

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|-------------------|------------|-----------|
| 事業所番号 | 4271402184 | | |
| 法人名 | 医療法人杏林堂 | | |
| 事業所名 | グループホーム明星(有明ユニット) | | |
| 所在地 | 長崎県南島原市布津町乙674-1 | | |
| 自己評価作成日 | 令和6年10月21日 | 評価結果市町村受理日 | 令和7年1月23日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaigokensaku.jp/42/ |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|--------------------|--|--|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 福祉総合評価機構 | | |
| 所在地 | 長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内 | | |
| 訪問調査日 | 令和 6年 12月 4日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

同法人の明島整形外科医院併設で医療面、緊急時の対応も万全です。
各居室に温便座付トイレ、洗面台、クローゼット付。バリアフリー設計です。
誕生会は、入所者様の誕生日当日に行い入所者・職員でお祝いいたします。
月末に個別で生活状況報告書を送付しご家族へ状況報告をおこなっています。
ドライブなど外出支援を積極的に行っています。
看護師免許を取得した職員が配属され、介護福祉士の資格を持っている職員が過半数を超えています。
理学療法士が月1回訪問し入居者との面談を行い生活向上を図っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、有明海と普賢岳を臨む風光明媚で豊かな自然環境に立地している。法人母体である整形外科医院との連携体制が整っており、事業所には、毎月理学療法士が訪れ、入居者の生活状態を確認している。理学療法士と職員が話し合い、本人のリハビリプランを立て、生活に取り入れ支援することによって、入居者の体力低下防止に努めている。入居者の居室は個性を生かして本人の居心地のよい空間となっている他、本人の馴染みである編み物や仏壇に拝むことなどを大切に支援している。地域の文化祭に出掛けての交流もあり、本人らしく生活することで楽しい毎日となっている。時には、入居者の意向に沿って足湯温泉に出掛けたり、職員が自宅に実った柿を持参して、皆で干し柿づくりを楽しんだり、拾ってきた子犬が老犬になるまで皆で成長を見守ったりと優しい心遣いが至るところでみえる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | <input type="radio"/> | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | <input type="radio"/> | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | <input type="radio"/> | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | <input type="radio"/> | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | <input type="radio"/> | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | <input type="radio"/> | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | <input type="radio"/> | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) | <input type="radio"/> | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | <input type="radio"/> | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | <input type="radio"/> | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | <input type="radio"/> | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | <input type="radio"/> | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | <input type="radio"/> | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-------------------|-----|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I.理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 「心も元気、身体も元気、明るく楽しく暮らしたい」を理念に掲げ、新入社員へは入社時に伝えている。理念の実践に当り毎月具体的な目標を全体会議で決めると共に評価もしながら実践に繋げている。 | “心も元気、身体も元気、明るく元気に暮らしたい”という入居者のあるべき姿を理念として掲げている。理念の実現のために、毎月の全体会議で具体的な目標を設定し、職員への浸透を図っている。入居者の意向に沿って柔軟に対応し足湯温泉に出掛けるなど、笑顔溢れる支援に努めている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 文化展へ作品出展などを通して事業所の様子などアピールを行い地域とのつながりを保っている。 | 布津町文化協会主催の文化祭に入居者と共に出向き、展示作品を鑑賞したり出店を楽しんだりしている。散歩の時に近所の人と挨拶を交わしたり、野菜の差し入れがあるなど日常的な交流がある。現在、認定こども園との交流や職場体験学習の受け入れを検討中である。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 研修や実践を通して認知症の方の理解を深めているが、地域の人々に向けて活かす事はあまりできていない。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 2ヶ月に1回地域の代表、市の職員代表、入所者家族代表、職員3名以上が参加し日々の活動報告や入所者の近況報告、状態等を報告し、参加者より地域の情報や市の取り組み、家族、入所者から意見や助言を頂きサービス向上に努めている。 | 行政担当者、住民代表、輪番制での家族代表の出席のもと、年6回対面での運営推進会議を開いている。熊本地震を体験した家族代表の提言から災害対策を検討した事例がある。以前は議事録を家族に郵送していたが、現在は事業所玄関に掲示する形をとっている。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 運営に関する疑問点など保険者である島原地域広域市町村組合介護保険課と連絡を取り合い連携を行っている。また、運営推進会議を通して行政と情報交換を行っている。 | 島原地域広域市町村組合介護保険課の担当者が運営推進会議に参加している。行政職員とは日頃から懇意な関係であり、協力体制は整っている。最近ではマイナ保険証の取扱い等について、不明な点があり、問い合わせで話し合った事例がある。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 職場内研修にて事例集を用いて職員全体で情報を共有している。運営推進会議時に身体的拘束適正化委員会及び高齢者虐待適正化委員会を実施し、毎月の全体会議時に確認を行っている。また、夜間は防犯上施錠しているが日中帯は開錠し、ドアチャイムで出入りを確認している。また、帰宅願望あって外に出られる入所者には声掛けを行い、一緒につきそう等見守り、寄り添う様になっている。 | 指針を整備し、身体拘束適正化委員会にて現況を検討して、運営推進会議で出席メンバーと共に確認している。ケアカンファレンスにて全職員で入居者一人ひとりの様子を検討している。施錠は行わず玄関センサーで出入りを把握している。帰宅願望が強い入居者の外出時には職員が付き添っている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 職場内研修にて身体拘束ゼロの手引きや事例集を用いて職員全体で情報を共有している。職員同士でケアの方法や言葉使い等気付いた時に話し合っ自分自身を振り返る様にしている。又、入浴時や更衣時に全身状態を観察し異常がないか確認している。 | | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 日常生活自立支援事業や青年後見人制度の研修会の開催が全くなく受講機会はなかったが、この期間、実際に後見人制度が必要な入所者に対し支援の援助を行った。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 出来る限り入所前に見学して頂くか、電話などで運営方針や理念、契約内容など伝え理解を得ている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 面会時や電話連絡の際は、近況報告と共に意見や要望を聞いたり施設での状況を報告している。全体会議で職員と意見交換を行い、運営推進会議で市の職員や地域の代表へ報告や意見を聞き運営に反映している。又玄関には意見箱を設置し個別で生活状況報告書を発送している。 | 重要事項説明書に苦情受付窓口を明記している。入居者の意向は入浴支援時や就寝準備の時間など1対1の時に聞き取っている。家族は事前に事業所に連絡し予約して10分から20分を目途に居室で面会している。餅つきと誕生日が同日であるため、餅つきを別日にしてほしいという要望があり反映している。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 全体会議や申し送り、職員個別から意見や提案を考慮して取り組んでいるが不満や苦情等言い難いところもあるので把握していない部分もある。敬老会などイベント実行時には実行委員を決め職員主体で企画し実行している。 | 毎月の全体会議では個別のカンファレンスやイベントの打合せ等を行っている。会議の前に、職員は会議で話し合いたいことをメモしており、議事録から全員で話し合っていることが確認できる。入居者の状態等申し送りとともに職員の要望も含めて毎日理事長にFAXしている。乾燥機やリフト浴など要望を反映して導入している。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | キャリアパス設定により資格に対し資格手当をつけ、受験や研修会等時には勤務調整を行い優先的に休みを与えるなど職場の環境・条件の整備に努めている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 新人職員には毎日職員が指導に付き、職員の力量に合わせて業務内容が把握できる様努めている。外部研修を受講した際には、毎月の全体会議で研修内容を報告してもらい全職員で共有できる様にしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------|-----|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | イベント(コンサート)など同法人の施設の職員、入所者の交流を行っている。また、職員間では消防訓練、消火訓練時など双方観察し再確認している。 | | |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入居前に本人・家族に見学して頂いて事前の調査で情報収集する事で本人・家族の要望を傾聴し安心して頂ける様な関係作りにも努めている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 入所前や入所時に家族からの不安や要望をしっかりと伺い入所後も日常の様子や変化を報告し、意向や要望があれば対応し、信頼関係を作る様にしている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 入所者の状況を見ながら、家族と話し合い、今何が必要なのかを探り対応している。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 今までの生活歴を把握し、人生の先輩から学ぶという姿勢で接し、利用者の話や訴えを傾聴し教え合ったり、励まし合ったりしながら支え合い、その人らしい生活が出来るよう、共に生活する家族として、信頼関係を築ける様に努めている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 本人の状態を共有し家族の意向を聴きながら良好な関係を築けるよう心掛けている。また、職員が全て支援するのではなく、ご家族も一緒に、本人の為に出来る事は協力して頂き、共に支える関係を築いている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 友人や知人、どなたでも来やすい雰囲気作りを心掛けている。コロナ5類へ移行後は、居室での10分間の面会を実施。徹底した消毒、換気を行い、家族や知人に協力して頂きながら入所者との関りが途切れない様努めている。又、家族の希望に応じて環境等に考慮し外出もされている。 | 家族だけでなく以前住んでいた近所の人を訪れている。入居者の希望に沿って、家族の協力を得て法事や墓参りに出掛けたり、近所の人の様子を見て安心している。新聞購読や趣味の編み物など馴染みの習慣を継続できるように、本人の生活歴を把握して、支援している。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|--|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 話を聴いたり相談に乗ったり、普段の活動を通じて利用者同士の関係を把握し職員間で情報共有を行っている。食事やドライブ時の座席なども利用者同士の関係性を把握し必要時は職員が間に入り良い関係が築けるよう支援している。 | | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 他の事業所や病院に移られた時は家族と街で会った時等状態を聞いている。又、ケアマネにも近況状況を聞き申し送りで職員へ報告している。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 女性の入所者は特に日々の家事をしたいという思いが強く、入所者から積極的に職員に声を掛け、コップ洗い洗濯物畳み、テーブル拭きなどを行っている。職員は本人様の出来る事を把握しサポートを行っている。日常生活での会話や表情、行動の中から本人の思いを把握し、職員間で情報を共有している。状態により困難な場合は家族や関係事業所より情報を頂き支援に活かしている。 | 本人が言葉で表現できない時は、表情や仕草から判断して支援している。以前、農業に従事していた入居者は中庭の草取りやプランターでネギや人参を育てている。就寝までにお腹が空く人には小さなおにぎりを提供している。居室での食事を希望する入居者に対応し、職員が支援している。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入所時に本人、家族より生活歴などの確認を行っている。又、普段の生活や会話の中から、これまでの生活歴や暮らしぶりを把握し職員間で情報を共有している。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 毎日の暮らしの様子や、本人の出来る事、出来ない事、言動などを経過記録に残し、職員間で本人の暮らしの現状を把握する様にしている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 本人、家族の意向や希望を聴き、職員間で意見を出し合い月に1回理学療法士訪問により生活状況に考慮したケアプランを作成している。変化があった場合には、本人の思いや意見をきき、本人の状態を確認しながら、全体会議でケアプランの見直しや定期的にモニタリングを実施し検討しながらケアプランを作成している。 | 入居前に本人・家族と面会して暫定プランを作成している。本プランは3ヶ月の短期目標・6ヶ月の長期目標の下、モニタリングを実施している。月1回法人施設の理学療法士が訪問し、入居者の生活状況を確認している。ただし、電話にて家族の意向を聞き取っているものの、書面で確認することができない。 | よりよいケアの実践のため、家族の意向や要望を把握して、ケアサービスに反映するとともに、その旨をケアプランに記載し、職員への周知を図ることが待たれる。 |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 日々のケアは個別記録し、気づきや情報については介護記録やモニタリングメモに記載し職員間で介護の実践や介護計画の見直しなど情報の共有を行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 本人・家族の状況や要望により外出、外泊や買い物の支援などの対応を行っている。又、感染状況を見ながらドライブなどの外出や買い物の支援など臨機応変に対応している。 | | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 運営推進会議やテレビ、新聞やホームページを活用し地域資源を把握している。イベントなど安全に楽しめる様に情報を収集し計画を立てて支援している。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 本人、家族からの要望を大切に、かかりつけ医への受診支援を行っている。医療機関との連携と家族へ生活状況報告書を活用しながら報告を都度行っている。 | 法人母体の整形外科医院が協力医療機関である。在宅時からのかかりつけ医を継続することも可能であり、専門医の受診が必要な時には情報提供書をもって受診している。受診内容、与薬情報は家族に連絡している。夜間や急変時にはマニュアルに即して対応し、職員も理解している。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 看護師目線での状態変化も介護者へ報告し、常に適切な医療ができる様に努めている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入退院時、入所者に負担にならない様、他医院と情報共有を密に行っている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 医療連携加算や看取り加算を算定している。入所前に重度化や終末期に対するケアの方法の説明と同意書を作成し終末期や重度化に対し方針の共有に取り組んでいる。状態の変化があった際に再度説明を行い本人様や家族の要望を確認している。 | 重度化・看取り対応に関する指針を、契約時に説明し、同意書を得ている。時期が訪れると家族に南高医師会発行の資料を用いて、ACP・終末期の意向を確認している。医師の診断、家族の同意の下に看取りプランに切り替えている。終末期に入ると家族の宿泊付き添いも可能である。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 看護師は応急手当が必要時、その都度医師の指示のもと対応している。又、夜間は医師へ状態を報告し指示を仰ぐようにしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|---|--|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。 | 年2回以上の避難訓練(うち1回は夜間想定)を行い、訓練終了後は消防訓練記録を作成し全体会議で反省や見直しを行っている。又、防災等の研修があれば参加し、防災に対する知識を高めている。日々の気象情報等の把握に努め、自然災害についても避難計画書を作成し、年1回の訓練を行っている。 | 夜間想定を含む年2回の避難訓練を実施し、消防立会い訓練も行っている。BCPの策定では基本となる計画から更に重要事項を拾い上げて、職員へ周知を図っている。非常時の持ち出しとしては入居者リストとパソコンを想定している。ただし、備蓄品リストの作成はこれからである。 | 法人内での協力体制を想定しているが、事業所独自の備蓄確認等、災害対策の再検討に期待したい。 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 全体会議にて虐待や個人情報保護の内部研修を行っている。意思決定の場面では、個々に合わせて分かり易い言葉や筆談などで説明して選択をして頂いている。排泄介助時は直接的ではない言葉掛けを行ったり、入浴介助等の肌が露出する場面ではタオルをかけるなどし、入所者の羞恥心やプライバシーに配慮した対応を取っている。 | 職員は入居者を尊重し苗字にさん付けを基本とし、同姓の場合は、名前前で呼び掛けている。また、温かみのある方言で話すことで、本人の安心に繋がっている。個人記録は所定の場所に保管しており、職員は入社時に守秘義務の誓約書を提出している。ホワイトボードには個人が特定できないようにイニシャルで記している。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 一人一人の状況に合わせ表情や態度からも思いやりや希望をくみ取れる様に分かり易く言葉掛けをする等、自己決定し易い様に支援している。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 一人一人の生活習慣を把握し、本人の意思を尊重するように心掛け、本人のペースでゆっくりと過ごして頂けるよう支援している。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 入所者の意思を尊重し、季節に合った着こなしを援助している。又、行事や外出時にお洒落を楽しめる様に心掛けている。定期的な訪問理容で散髪でき、希望があれば美容室への送迎も行っている。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 食器は、入所者が使い易い形や大きさと盛り付けも見栄えが良いように心掛けている。又、配膳台には衛生面に気を付けておしぼりをセッティングしている。おやつは出来る限り手作りで提供しており、おやつのお食器は職員と入所者が話をしながら洗っている。 | 食材を外注しており、職員が順番で調理している。本人の状態を見ながら、キザミ食やミキサー食に加工している。季節に合わせて正月は雑煮、ひな祭りはちらし寿司、端午の節句は鯉の蒲鉾など提供している。誕生日は手作りのケーキやジュースで祝っている他、入居者と一緒に干し柿作りを楽しんでいる。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 高齢者施設向けの食材配達で業者による専属管理栄養士監修のもと、栄養バランスや摂取カロリー等、偏りのない食事提供に努めている。また、個人の疾患、咀嚼、嚥下能力に応じた食事・水分摂取の確保に努めている。夏場は熱中症対策として、経口補水液も提供している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 起床時・毎食後には、個々の能力に合わせた口腔ケアや、定期的な義歯洗浄を行い、口腔内の清潔保持に努めている。また、口腔ケアの際や利用者の訴えに応じ口腔内や義歯の状態を観察し、適宜歯科受診、往診を受けている。 | | |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄チェック表から個々の排泄パターンを把握し、声掛けやトイレへの誘導を行っている。又、自立に向けて出来るだけトイレで排泄して頂けるよう支援している。ただし、トイレでの排泄困難・訴えのない方に限ってはオムツ等を使用し排泄パターンを把握している。 | 事業所では、日中はリビングの傍にあるトイレを利用し、夜間は各居室に設置しているトイレを利用している。現在、ポータブルトイレやオムツを使用する利用者はおらず、リハビリパンツや布パンツを使用している。パッドのサイズは日常的に検討しており、適したサイズとなるよう支援している。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 排泄チェック表で排便管理を行っている。牛乳などの乳製品を提供し、便秘予防と自然排便につながる様取り組んでいる。又、便秘の改善がみられない場合は、薬の調整を行い、排便を促している。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 安全の為、日中帯に入浴して頂いている。順番や入浴出来ない時の清拭など希望に沿った入浴が出来る様支援し、一人一人個別に入浴して頂いており、入浴時間等は目安として一人30分程度としているが、入居者一人一人の好みに応じゆっくりとくつろいで頂けるように配慮し、原則的に同性職員が介助を行っている。又、入浴剤を使用しながら入浴を楽しめる様に工夫している。本人様の要望に合わせて入浴日を変更する対応も行っている。 | 毎日湯を沸かし、3日に1回の入浴を支援している。浴室は2ヶ所あり、1ヶ所はリフト浴もあるため、車椅子の利用者も湯に浸かっている。同時に入浴となっても羞恥心に配慮し、互いに会わないように工夫している他、同性介助にも対応している。シャンプーや化粧水は本人の希望に合わせており、季節にはゆず湯を提供している。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 日中帯の活動を促し生活リズムを整えている。時節にあつた温度調整に努め安心して休息したり安眠できるよう支援している。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 個々の薬箱を用意している。薬剤情報を個々のファイルに綴じて、すぐに観覧できる様にしている。状態観察を行い、必要に応じて主治医へ相談し見直しを行っている。又、専門医を受診した際、薬の変更等があった場合、その都度主治医へ報告し、申し送りを行い、職員間でも情報共有を行っている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 過去の経験などを考慮してお願いできそうな仕事を頼み感謝の言葉を伝えている。週1回職員が入居者の要望を聞いて買い物の代行を行っている。また、感染状況をみながら外出や季節のイベントを実施し気分転換出来るよう支援している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 少人数での外出、人の混み合わない時間等、感染予防対策に留意しながら希望される場所へ買い物へ出掛け、入所者の好きな物や必要な物を買われる。買い物へ行かれない方にはドライブ等へ出掛け気分転換が図れるよう配慮している。 | 日常的には中庭に出て日光浴したり、近隣を散歩している。春には桜の花見に出掛け、おやつを食べて楽しみ、秋には紅葉狩りに出掛けている。入居者の声から足湯に出掛け笑顔でのんびりしている様子がある。買い物に出掛けることもあり、入居者の外出支援に努めていることがわかる。 | |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 入所者の希望があれば、ご家族了承の上でお金を持って頂く事にしているが、ほとんどの方が自己管理が難しい為、家族と相談し欲しい物がある場合など立て替え払いでの対応をしている。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 年賀状やハガキなど要望があれば支援を行い、電話も希望に応じ、その都度やり取りが出来る様、支援している。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | ホームの中庭に面した窓からは明るい日差しや、ホームの愛犬が遊ぶ様子を眺める事が出来、リビングや廊下に設けられたスペースでは利用者同士や職員と談話したり、思い思いに過ごせる様にしている。又、共用空間や各居室は、空調や音の配慮に心掛け、それぞれに落ち着いた環境作りを行っている。 | 事業所は中庭を囲む回廊式の造りである。リビングにはソファやテーブルを配し、車椅子で自由に移動できる空間を確保している。窓際の一人掛け椅子で新聞を読む入居者の姿があるなど、思い思いの場所でのんびり過ごせる設えとなっている。15年ほど前から事業所近くで保護された子犬を皆で大切に育てている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 職員間でも入所者同士の関係を把握し、気の合った入所者同士が気軽に話が出来る様に席の配置を考慮している。また、テレビの前を広くし、集まり易い空間となる様にソファを配置している。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 家族や、入所者本人が慣れ親しんだ家具や火気を持ち込まない条件で仏壇、テレビ・冷蔵庫などの生活家電など持ち込みの規制もなく、心地よく過ごす事ができる様工夫している。 | 居室にはベッド、収納箆筒、クローゼットを備え、トイレ・洗面台を付設している。家具の持ち込みは自由で、仏壇や位牌で故人を偲ぶ入居者は職員の支援の下、仏飯や茶を毎日供えている。家族が入居者の好物を持参し、冷蔵庫に保管するなど、その人らしく過ごせるように支援している。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 一人ひとりの力を把握し、張り紙やその人に合った声掛けやコミュニケーションカードを使用して混乱や失敗を防ぎ、その都度、職員一同で話し合い、本人の不安材料を取り除き、安全に暮らせる様支援している。 | | |

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|-------------------|------------|--|
| 事業所番号 | 4271402184 | | |
| 法人名 | 医療法人杏林堂 | | |
| 事業所名 | グループホーム明星(雲仙ユニット) | | |
| 所在地 | 長崎県南島原市布津町乙674-1 | | |
| 自己評価作成日 | 令和6年10月21日 | 評価結果市町村受理日 | |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaigokensaku.jp/42/ |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|--------------------|---|-----|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 福祉総合評価機構 | | |
| 所在地 | 長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内 | | |
| 訪問調査日 | 令和 | 年 | 月 日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

同法人の明島整形外科医院併設で医療面、緊急時の対応も万全です。
各居室に温便座付トイレ、洗面台、クローゼット付。バリアフリー設計です。
誕生会は、入所者様の誕生日当日に行い入所者・職員でお祝いいたします。
月末に個別で生活状況報告書を送付しご家族へ状況報告をおこなっています。
ドライブなど外出支援を積極的に行っています。
看護師免許を取得した職員が配属され、介護福祉士の資格を持っている職員が過半数を超えています。
理学療法士が月1回訪問し入居者との面談を行い生活向上を図っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

| | | | |
|--|--|--|--|
| | | | |
|--|--|--|--|

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-------------------|-----|---|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I.理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 「心も元気、身体も元気、明るく楽しく暮らしたい」を理念に掲げ、新入社員へは入社時に伝えている。理念の実践に当り毎月具体的な目標を全体会議で決めると共に評価もしながら実践に繋げている。 | | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 文化展へ作品出展などを通して事業所の様子などアピールを行い地域とのつながりを保っている。 | | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 研修や実践を通して認知症の方の理解を深めているが、地域の人々に向けて活かす事はあまりできていない。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 2ヶ月に1回地域の代表、市の職員代表、入所者家族代表、職員3名以上が参加し日々の活動報告や入所者の近況報告、状態等を報告し、参加者より地域の情報や市の取り組み、家族、入所者から意見や助言を頂きサービス向上に努めている。 | | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 運営に関する疑問点など保険者である島原地域広域市町村組合介護保険課と連絡を取り合い連携を行っている。また、運営推進会議を通して行政と情報交換を行っている。 | | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 職場内研修にて事例集を用いて職員全体で情報を共有している。運営推進会議時に身体的拘束適正化委員会及び高齢者虐待適正化委員会を実施し、毎月の全体会議時に確認を行っている。また、夜間は防犯上施錠しているが日中帯は開錠し、ドアチャイムで出入りを確認している。また、帰宅願望あって外に出られる入所者には声掛けを行い、一緒につきそう等見守り、寄り添う様になっている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 職場内研修にて身体拘束ゼロの手引きや事例集を用いて職員全体で情報を共有している。職員同士でケアの方法や言葉使い等気付いた時に話し合っ自分自身を振り返る様にしている。又、入浴時や更衣時に全身状態を観察し異常がないか確認している。 | | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 日常生活自立支援事業や青年後見人制度の研修会の開催が全くなく受講機会はなかったが、この期間、実際に後見人制度が必要な入所者に対し支援の援助を行った。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 出来る限り入所前に見学して頂くか、電話などで運営方針や理念、契約内容など伝え理解を得ている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 面会時や電話連絡の際は、近況報告と共に意見や要望を聞いたり施設での状況を報告している。全体会議で職員と意見交換を行い、運営推進会議で市の職員や地域の代表へ報告や意見を聞き運営に反映している。又玄関には意見箱を設置し個別で生活状況報告書を発送している。 | | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 全体会議や申し送り、職員個別から意見や提案を考慮して取り組んでいるが不満や苦情等言い難いところもあるので把握していない部分もある。敬老会などイベント実行時には実行委員を決め職員主体で企画し実行している。 | | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | キャリアパス設定により資格に対し資格手当をつけ、受験や研修会等時には勤務調整を行い優先的に休みを与えるなど職場の環境・条件の整備に努めている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 新人職員には毎日職員が指導に付き、職員の力量に合わせて業務内容が把握できる様努めている。外部研修を受講した際には、毎月の全体会議で研修内容を報告してもらい全職員で共有できる様にしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------|-----|--|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | イベント(コンサート)など同法人の施設の職員、入所者の交流を行っている。また、職員間では消防訓練、消火訓練時など双方観察し再確認している。 | | |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入居前に本人・家族に見学して頂いて事前の調査で情報収集する事で本人・家族の要望を傾聴し安心して頂ける様な関係づくりに努めている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 入所前や入所時に家族からの不安や要望をしっかりと伺い入所後も日常の様子や変化を報告し、意向や要望があれば対応し、信頼関係を作る様にしている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 入所者の状況を見ながら、家族と話し合い、今何が必要なのかを探り対応している。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 今までの生活歴を把握し、人生の先輩から学ぶという姿勢で接し、利用者の話や訴えを傾聴し教え合ったり、励まし合ったりしながら支え合い、その人らしい生活が出来るよう、共に生活する家族として、信頼関係を築ける様に努めている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 本人の状態を共有し家族の意向を聴きながら良好な関係を築けるよう心掛けている。また、職員が全て支援するのではなく、ご家族も一緒に、本人の為に出来る事は協力して頂き、共に支える関係を築いている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 友人や知人、どなたでも来やすい雰囲気作りを心掛けている。コロナ5類へ移行後は、居室での10分間の面会を実施。徹底した消毒、換気を行い、家族や知人に協力して頂きながら入所者との関りが途切れない様努めている。又、家族の希望に応じて環境等に考慮し外出もされている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 話を聴いたり相談に乗ったり、普段の活動を通じて利用者同士の関係を把握し職員間で情報共有を行っている。食事やドライブ時の座席なども利用者同士の関係性を把握し必要時は職員が間に入り良い関係が築けるよう支援している。 | | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 他の事業所や病院に移られた時は家族と街で会った時等状態を聞いている。又、ケアマネにも近況状況を聞き申し送りで職員へ報告している。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 女性の入所者は特に日々の家事をしたいという思いが強く、入所者から積極的に職員に声を掛け、コップ洗い洗濯物畳み、テーブル拭きなどを行っている。職員は本人様の出来る事を把握しサポートを行っている。日常生活での会話や表情、行動の中から本人の思いを把握し、職員間で情報を共有している。状態により困難な場合は家族や関係事業所より情報を頂き支援に活かしている。 | | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入所時に本人、家族より生活歴などの確認を行っている。又、普段の生活や会話の中から、これまでの生活歴や暮らしぶりを把握し職員間で情報を共有している。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 毎日の暮らしの様子や、本人の出来る事、出来ない事、言動などを経過記録に残し、職員間で本人の暮らしの現状を把握する様にしている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 本人、家族の意向や希望を聞き、職員間で意見を出し合い月に1回理学療法士訪問により生活状況に考慮したケアプランを作成している。変化があった場合には、本人の思いや意見をきき、本人の状態を確認しながら、全体会議でケアプランの見直しや定期的にモニタリングを実施し検討しながらケアプランを作成している。 | | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 日々のケアは個別記録し、気づきや情報については介護記録やモニタリングメモに記載し職員間で介護の実践や介護計画の見直しなど情報の共有を行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 本人・家族の状況や要望により外出、外泊や買い物の支援などの対応を行っている。又、感染状況を見ながらドライブなどの外出や買い物の支援など臨機応変に対応している。 | | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 運営推進会議やテレビ、新聞やホームページを活用し地域資源を把握している。イベントなど安全に楽しめる様に情報を収集し計画を立てて支援している。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 本人、家族からの要望を大切に、かかりつけ医への受診支援を行っている。医療機関との連携と家族へ生活状況報告書を活用しながら報告を都度行っている。 | | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 看護師目線での状態変化も介護者へ報告し、常に適切な医療ができる様に努めている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入退院時、入所者に負担にならない様、他医院と情報共有を密に行っている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 医療連携加算や看取り加算を算定している。入所前に重度化や終末期に対するケアの方法の説明と同意書を作成し終末期や重度化に対し方針の共有に取り組んでいる。状態の変化があった際に再度説明を行い本人様や家族の要望を確認している。 | | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 看護師は応急手当が必要時、その都度医師の指示のもと対応している。又、夜間は医師へ状態を報告し指示を仰ぐようにしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|---|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。 | 年2回以上の避難訓練(うち1回は夜間想定)を行い、訓練終了後は消防訓練記録を作成し全体会議で反省や見直しを行っている。又、防災等の研修があれば参加し、防災に対する知識を高めている。日々の気象情報等の把握に努め、自然災害についても避難計画書を作成し、年1回の訓練を行っている。 | | |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 全体会議にて虐待や個人情報保護の内部研修を行っている。意思決定の場面では、個々に合わせて分かり易い言葉や筆談などで説明して選択をして頂いている。排泄介助時は直接的ではない言葉掛けを行ったり、入浴介助等の肌が露出する場面ではタオルをかけるなどし、入所者の羞恥心やプライバシーに配慮した対応を取っている。 | | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 一人一人の状況に合わせ表情や態度からも思いやりや希望をくみ取れる様に分かり易く言葉掛けをする等、自己決定し易い様に支援している。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 一人一人の生活習慣を把握し、本人の意思を尊重するように心掛け、本人のペースでゆっくりと過ごして頂けるよう支援している。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 入所者の意思を尊重し、季節に合った着こなしを援助している。又、行事や外出時にお洒落を楽しめる様に心掛けている。定期的な訪問理容で散髪でき、希望があれば美容室への送迎も行っている。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 食器は、入所者が使い易い形や大ききで盛り付けも見栄えが良いように心掛けている。又、配膳台には衛生面に気を付けておしぼりをセッティングしている。おやつは出来る限り手作りで提供しており、おやつの食器は職員と入所者が話をしながら洗っている。 | | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 高齢者施設向けの食材配達で業者による専属管理栄養士監修のもと、栄養バランスや摂取カロリー等、偏りのない食事提供に努めている。また、個人の疾患、咀嚼、嚥下能力に応じた食事・水分摂取の確保に努めている。夏場は熱中症対策として、経口補水液も提供している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 起床時・毎食後には、個々の能力に合わせた口腔ケアや、定期的な義歯洗浄を行い、口腔内の清潔保持に努めている。また、口腔ケアの際や利用者の訴えに応じ口腔内や義歯の状態を観察し、適宜歯科受診、往診を受けている。 | | |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄チェック表から個々の排泄パターンを把握し、声掛けやトイレへの誘導を行っている。又、自立に向けて出来るだけトイレで排泄して頂けるよう支援している。ただし、トイレでの排泄困難・訴えのない方に限ってはオムツ等を使用し排泄パターンを把握している。 | | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 排泄チェック表で排便管理を行っている。牛乳などの乳製品を提供し、便秘予防と自然排便につながる様取り組んでいる。又、便秘の改善がみられない場合は、薬の調整を行い、排便を促している。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 安全の為、日中帯に入浴して頂いている。順番や入浴出来ない時の清拭など希望に沿った入浴が出来る様支援し、一人一人個別に入浴して頂いており、入浴時間等は目安として一人30分程度としているが、入居者一人一人の好みに応じゆっくりとくつろいで頂けるように配慮し、原則的に同性職員が介助を行っている。又、入浴剤を使用しながら入浴を楽しめる様に工夫している。本人様の要望に合わせて入浴日を変更する対 | | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 日中帯の活動を促し生活リズムを整えている。時節にあった温度調整に努め安心して休息したり安眠できるよう支援している。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 個々の薬箱を用意している。薬剤情報を個々のファイルに綴じて、すぐに観覧できる様にしている。状態観察を行い、必要に応じて主治医へ相談し見直しを行っている。又、専門医を受診した際、薬の変更等があった場合、その都度主治医へ報告し、申し送りを行い、職員間でも情報共有を行っている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 過去の経験などを考慮してお願いできそうな仕事を頼み感謝の言葉を伝えている。週1回職員が入居者の要望を聞いて買い物の代行を行っている。また、感染状況をみながら外出や季節のイベントを実施し気分転換出来るよう支援している。 | | |

グループホーム明星(雲仙ユニット)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 少人数での外出、人の混み合わない時間等、感染予防対策に留意しながら希望される場所へ買い物へ出掛け、入所者の好きな物や必要な物を買われる。買い物へ行かれない方にはドライブ等へ出掛け気分転換が図れるよう配慮している。 | | |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 入所者の希望があれば、ご家族了承の上でお金を持って頂く事にしているが、ほとんどの方が自己管理が難しい為、家族と相談し欲しい物がある場合など立て替え払いでの対応をしている。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 年賀状やハガキなど要望があれば支援を行い、電話も希望に応じ、その都度やり取りが出来る様、支援している。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | ホームの中庭に面した窓からは明るい日差しや、ホームの愛犬が遊ぶ様子を眺める事が出来、リビングや廊下に設けられたスペースでは利用者同士や職員と談話したり、思い思いに過ごせる様にしている。又、共用空間や各居室は、空調や音の配慮に心掛け、それぞれに落ち着いた環境作りを行っている。 | | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 職員間でも入所者同士の関係を把握し、気の合った入所者同士が気軽に話が出来る様に席の配置を考慮している。また、テレビの前を広くし、集まり易い空間となる様にソファを配置している。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 家族や、入所者本人が慣れ親しんだ家具や火気を持ち込まない条件で仏壇、テレビ・冷蔵庫などの生活家電など持ち込みの規制もなく、心地よく過ごす事ができる様工夫している。 | | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 一人ひとりの力を把握し、張り紙やその人に合った声掛けやコミュニケーションカードを使用して混乱や失敗を防ぎ、その都度、職員一同で話し合い、本人の不安材料を取り除き、安全に暮らせる様支援している。 | | |